

「食育」に関する現状と今後の在り方

2023年2月18日

生駒市PTA協議会 幼稚園部会



目次

1. 背景・目的

1－1. テーマ選定について

1－2. 食育の定義・目的

2. アンケートについて

2－1. 保護者向けアンケート結果

2－2. 園向けアンケート結果

2－3. まとめ

3. 今後の在り方



1-1. テーマ選定について

- ◆コロナ禍における各園・家庭での活動の変化を議論する中、特に「食育活動」に多くの関心や不安の声が上がった
- ◆食は子ども達の成長の基礎を為すものである為、「食育の在り方」をテーマに選定した

【テーマ選定理由】



背景

- ・コロナ禍において、園における行事や活動内容の制限・変化を受け、家庭の役割や子どもとの関わり方について議論
- ・特に、安全・安心が求められる「食」は、不安の声も多く、今議論すべき重要なテーマであるとの認識



テーマ選定

- ・現状、各園での食育活動には一定の制限（黙食や子ども達が育てた野菜を使った食事会の中止など）がある状況
- ・子ども達の基礎を為す食について、家庭・園での現状や考えを把握し、今後の在り方を研究することで、子ども達の健やかな成長に寄与したい

1 - 2. 食育の定義・目的

- ◆食育は「生きる上の基本・基礎」、「子どもたちが正しい知識と食習慣を身に付けること」と定義
- ◆農林水産省でまとめられている食育の目的は、12項目と多岐に渡り、食育の意義は大きい

【食育の定義】

農林水産省

生きる上での基本であって、知育・徳育・体育の基礎となるもの

文部科学省

子ども達が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けること

【食育の目的】 農林水産省第4次食育推進基本計画（食育ピクトグラムより） 令和4年5月10日更新

①共食	家族や仲間と、会話を楽しみながら食事し、心も体も元気に	⑦災害への備え	災害を意識し、非常時のための食料品を備蓄
②朝食改善	朝食を食べて生活リズムを整え、健康的な生活習慣に	⑧環境配慮	環境に配慮した農林水産物・食品を購入したり、食品ロスの削減
③栄養バランス	主食・主菜・副菜を組み合わせ、バランスの良い食生活	⑨地産地消	食を支える農林水産業や地域経済の活性化、環境負荷の低減
④生活習慣病予防	適正体重の維持や減塩に努めて、生活習慣病を予防。	⑩農林漁業体験	農林漁業を体験して、食や農林水産業への理解を深める
⑤歯・口腔健康	口腔機能が十分に発達し維持されることが重要。よく噛んで	⑪食文化継承	郷土料理や伝統料理等の食文化を大切に、次世代への継承
⑥食の安全	食品の安全性等の基礎知識をもち、自ら判断し行動力を養う	⑫食育推進	生涯の健康・質の高い生活の為「食」を考え、食育の取組を推進

【ご参考】食育基本計画における家庭・学校園の役割

第4次 食育推進基本計画で推進する内容(抜粋)

1. 家庭における食育の推進

●乳幼児期からの基本的な生活習慣の形成

- ・子供と保護者が一緒に意識を高め行動するための取組を推進
- ・科学的知見を踏まえながら、「早寝早起き朝ごはん」国民運動、「健やか親子21（第2次）」等により全国的な普及啓発を推進

●在宅時間を活用した食育の推進

- ・ワーク・ライフ・バランスや働き方や暮らし方の変化等により、自宅で料理や食事をするこも増えており、食に関する意識を高めるよう食育を推進

2. 学校、保育所等における食育の推進

●栄養教諭の一層の配置促進

- ・全ての児童生徒が、栄養教諭の専門性を生かした食に関する指導を等しく受けられるよう、栄養教諭の役割の重要性やその成果の普及啓発等を通じて、学校栄養職員の栄養教諭への速やかな移行に努め、地域格差を解消すべく、より一層の配置を促進

●学校給食の地場産物利用促進へ連携・協働

- ・地場産物や国産食材の活用を進める。地場産物の活用は、輸送時のCO₂排出抑制等、環境負荷の低減にも寄与するため、SDGsの観点からも推進
- ・日本の伝統的な食文化の理解を深める給食の普及・定着等の取組を推進

●就学前の子供に対する食育の推進

- ・保育所、幼稚園、認定こども園等で、保護者や地域と連携・協働により取組を推進

3. 地域における食育の推進

●健康寿命の延伸につながる食育の推進

- ・野菜や果物の摂取量増加を促進
- ・自然に健康になれる食環境づくりを産官学等が連携し推進
- ・「栄養ケア・ステーション」等の民間主導の取組や、食生活改善推進員や食育ボランティア等の活動を推進

●職場における従業員等の健康に配慮した食育の推進

- ・従業員等の健康管理に資する健康経営が広がっていることも契機とし、企業の経営層がコミットした職場の食環境整備が進むよう情報提供

●地域における共食の推進

- ・子供食堂や通いの場など地域での様々な共食の場づくりを推進

●災害時に備えた食育の推進

- ・家庭で水や熱源、食料品等を最低でも3日間、できれば1週間程度備蓄する取組を推進

●日本型食生活の実践の推進

- ・ごはん(主食)を中心に、魚、肉、牛乳・乳製品、野菜、海藻、豆類、果物、お茶など多様な副食(主菜・副菜)等を組み合わせ、栄養バランスに優れた「日本型食生活」の実践を推進

●貧困等の状況にある子供に対する食育の推進

- ・「子供の貧困対策に関する大綱」(令和元年11月閣議決定)等に基づき、フードバンク等と連携し、食育の推進に関し支援

4. 食育推進運動の展開

●食育活動表彰

- ・食育関係者の優れた活動を奨励するため、表彰を実施

●全国食育推進ネットワークの活用

- ・「新たな日常」やデジタル化に対応した食育など、最新の食育活動の方法や知見を食育関係者間で情報共有や、異業種間のマッチングによる新たな食育活動を創出等

●デジタル化への対応

- ・デジタルトランスフォーメーションが進む中、オンラインの非接触型の食育の展開の推進や、食育アプリ等の情報提供

5. 生産者と消費者との交流促進、環境と調和のとれた農林漁業の活性化等

●農林漁業体験や地産地消の推進

- ・子供を中心とした農林漁業体験や農山漁村体験を促進
- ・地域の農林水産物の安定的な生産・供給体制の構築や利用拡大のほか、食と農のつながりの深化に着目した新たな国民運動を展開

●持続可能な食につながる環境に配慮した消費の推進

- ・有機農業をはじめとした持続可能な農業生産や持続可能な水産資源管理等に関して普及啓発
- ・持続可能なフードシステムにつながるエシカル消費を推進

●食品ロス削減を目指した国民運動の展開

- ・食品ロス削減推進法に基づき国民運動として食品ロス削減を推進

6. 食文化の継承のための活動への支援等

●地域の多様な食文化の継承につながる食育の推進

- ・和食文化のユネスコ無形文化遺産への登録の趣旨を踏まえ、国民の関心と理解が深まるよう郷土料理のデータベース化、中核的な人材の育成、国内外へ情報発信

●食生活改善推進員等のボランティア活動等における取組

- ・食生活改善推進員等のボランティアが行う料理教室や体験活動等において、地域の郷土料理や伝統料理を取り入れることにより、食文化の普及と継承を推進

●学校給食等での郷土料理等の積極的な導入や行事の活用

- ・学校給食を始めとした学校教育活動において郷土料理の歴史、ゆかり、食材などを学ぶ取組を推進

7. 食品の安全性、栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供及び国際交流の推進

●食品の安全性や栄養等に関する情報提供

- ・食品の安全性や栄養等に関する様々な情報について、SNSなどの様々な媒体や各種イベント、食育ツールなどを活用した情報提供

●食品表示の理解促進

- ・消費者の更なる食品表示の活用に向け、原料原産地表示、栄養成分表示等を含め、戦略的な普及啓発を推進

詳しくは

第4次食育推進基本計画【農林水産省】

https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/plan/4_plan/index.html

2. アンケート実施内容

◆アンケートを実施することで、現状の家庭と園における食育に対する意識や取り組み事例を把握し、今後の食育活動のさらなる活性化について検討したい

【アンケート実施目的】



- ・コロナ禍を経験し、各家庭における「食育活動」に関する意識の変化や現状の把握
- ・保護者が園に希望する食育活動に関する現状の把握
- ・コロナ禍における各園の食育活動に関する考えの把握

▶ 園と保護者間での食育に関する意思統一を図ることや、お互いの要望を確認することで、食育活動を活性化させる

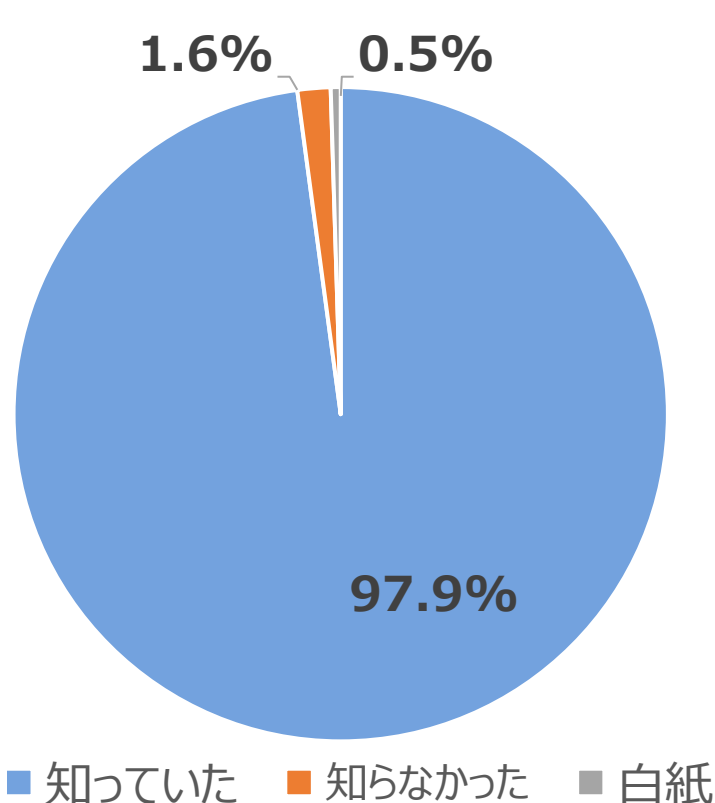
【アンケート内容】

項目	内容
対象	○あすか野幼稚園、生駒台幼稚園、生駒幼稚園、壱分幼稚園、桜ヶ丘幼稚園、俵口幼稚園、なばた幼稚園、南こども園の保護者612名○各園の先生方1園1回答
期間	○2022年11月7日～2022年11月11日
質問内容	○保護者向け ⇒食育の認知度、関心度、昨今新しく始めた取り組み、園への要望 ○各園の先生方向け ⇒入学前までにすべき食育、コロナ禍における意識の変化、今後復活させたい人気の食育イベント、新しい食育活動案

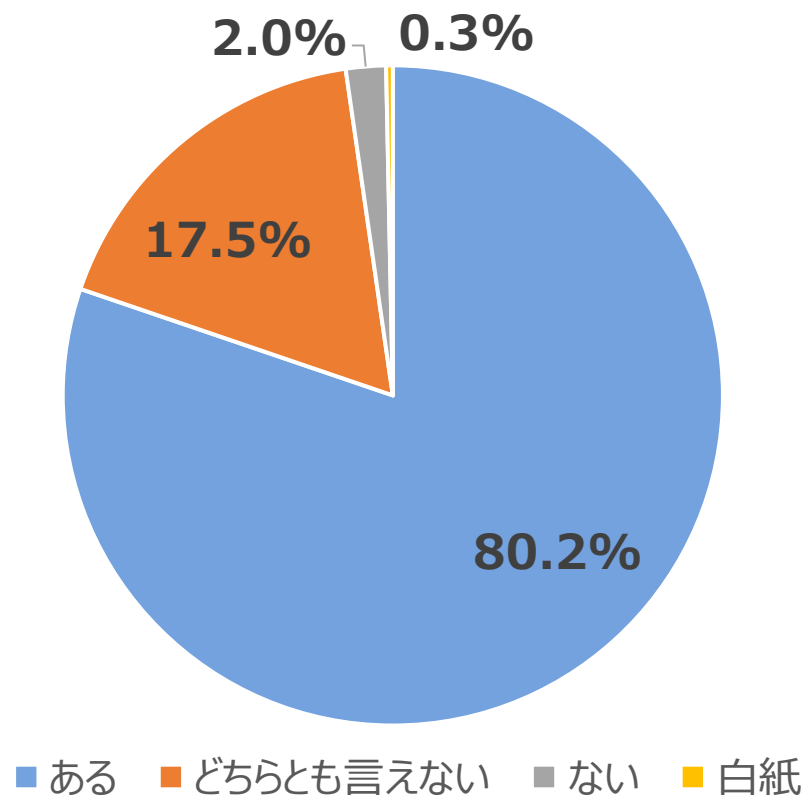
2 - 1.保護者向けアンケート結果①

◆「食育」の認知度は約98%であり、「食育」に関心があると答えた方は80%にまで上った

Q1.「食育」という言葉を知っていましたか？



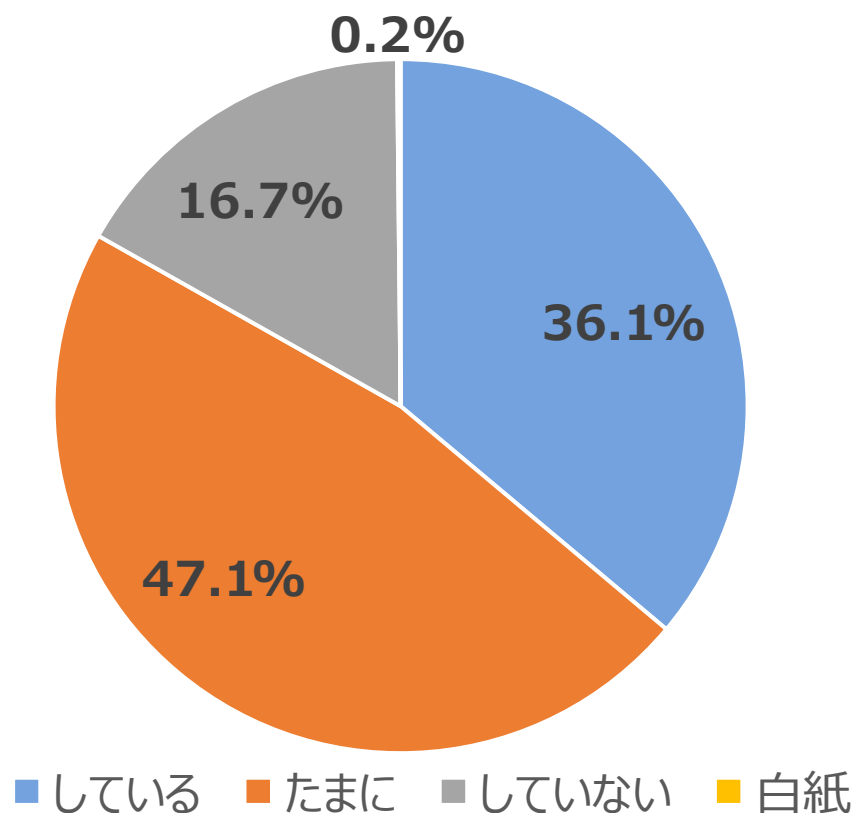
Q2.「食育」に関心がありますか？



2 - 1.保護者向けアンケート結果②

- ◆「食育」を日頃から意識する方は、全体の約36%であり、やや少ない結果となった
- ◆日頃から食育を意識する方が実践する内容の多くは「食卓の雰囲気作り」、「お手伝い」だった

Q3.「食育」を日頃から意識していますか？



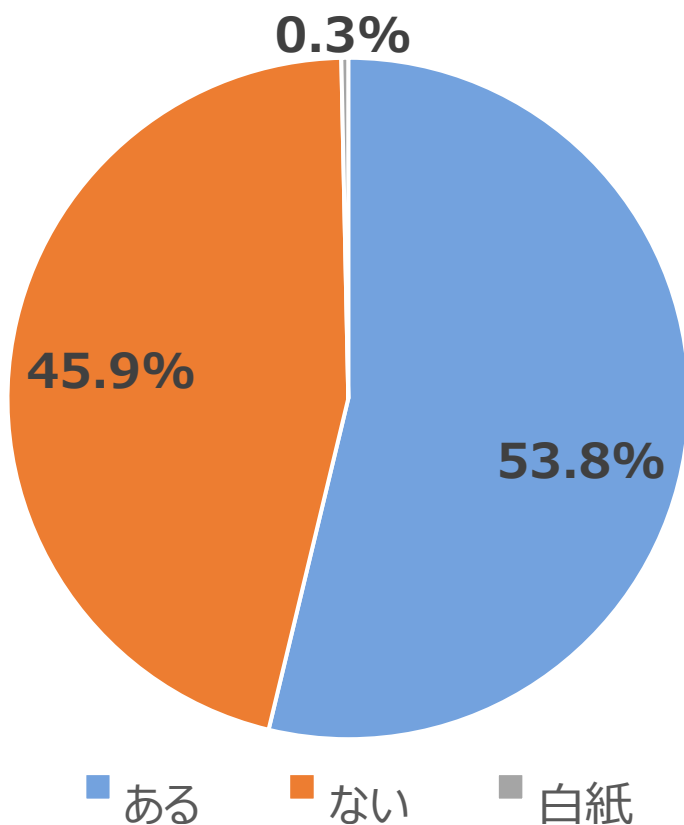
具体的な内容例

農業体験	家庭菜園で夏にはゴーヤ、冬には大根などを作った
栄養 バランス	絵本をもとにどの食材が体にとってどんな働きをするのかを説明
栄養 バランス	色々な食材を使って料理をして、その食材について話す。旬を大切にする
栄養 バランス	嫌いなものも一口は食べれるように彩り、形、味を変え、苦手意識を持たないようにする
共食	楽しく食べる雰囲気づくり（食べる場所を変えるなど）、いろいろな味に触れる
共食	食事のマナーについて都度話をする
食の安全	買い物のお手伝いをさせ、野菜に触れさせる

2 - 1.保護者向けアンケート結果③

- ◆コロナ禍において、約54%の方がお子さまと何らかの食育活動を新たに始めている
- ◆新たに始めた活動の約80%が「一緒に料理をする」だった

Q4.お子さまと新たに始めた食育活動は？



具体的な内容例

農業体験	トマトやミニトマト・イチゴ・大葉・バジル等を家庭菜園で収穫
栄養 バランス	苦手な野菜が好きになるように、お絵かきしたり野菜に関する歌を聞いたりしている
共食	食事のマナーを教えたり、料理や配膳を手伝わせたりするようになった
共食	ベランダで昼食やお菓子をアウトドア風に食べたりした
食育推進	一緒に料理（ご飯、パン、お菓子作り）を始めた
食育推進	小麦粘土を作っておままごとをし、工作による見立て遊び
食の安全	スーパーと一緒に行って、野菜、魚、果物等食材に触れる

2 - 1.保護者向けアンケート結果④

◆今後、園に希望する食育活動について、多かったのは「昼食時の会話の再開・活性化」「多様な食との触れ合い」だった

Q5.今後、園に希望する食育活動があれば教えてください

農業体験	野菜栽培は続けてほしい。園で作るキュウリがきっかけで、キュウリを食べられるようになった
農業体験	米の成長過程の勉強や、野菜の成長過程を実際に育てたり見たりする機会を増やして欲しい
栄養 バランス	ジュースやお菓子が大好きなので、「いっぱい砂糖が入っている」ということを知らせて欲しい
共食	1週間～月毎で席替えと一緒に食べるお友達を変更するローテーションを組み、他の人の食べてるのを見て色々と学んで欲しい
共食	会話しながら楽しく食べたり、やきいもパーティーをしたり、食事を満喫させてあげたい
共食	感謝の心を忘れず、食事を頂けるよう声掛けをしていただきたい
食育推進	魚、お肉、牛乳、お豆腐、パン、お米等どこからどうやって食卓へ並ぶのか（いろんな人達が関わっているということを学び、ありがたく頂けるようになるために）
地産地消	生駒の食べ物や郷土料理に触れる、機会を増やして欲しい

2-2.園向けアンケート結果①

- ◆家庭に希望する食育活動では、「楽しいと思える食卓の雰囲気作り」の意見が多かった
- ◆食への意識の変容は、「黙食による子どもたちの会話が無い事への懸念」が上がった

質問内容	回答
①家庭に希望する食育活動	<ul style="list-style-type: none">・おいしい楽しいという雰囲気作りの上で、苦手な食材を使った食事（好き嫌いに着目しない）・おはし等正しく持ち、使えるようになる。マナーを学ぶ・野菜の栽培（旬を知る）、買い物で野菜を見る機会を持つ。食べ物の絵本を読む・一緒に献立を考えたり、簡単なクッキングをする・決められた時間内に食事を終える。お腹が空くように、活動をしっかりする
②コロナ禍以降、食への意識の変容	<ul style="list-style-type: none">・黙食になり会話して楽しく食べる（おいしさの共有）ことが減った ⇒苦手でもみんなと一緒にだったら楽しく食べられるという体験を逸失・栽培後園内で調理し、食べる事が出来なくなり、生の子どもの反応を見ることができないが、食べ物からも四季を感じて欲しいと願い、ご家庭での力を借りている・パーティションを立ててお弁当を食べるので、他の子のお弁当を見たり、話す機会が減った

2-2.園向けアンケート結果②

- ◆復活させたい取り組みには「収穫～食事」を園で完結させることや、地域との交流が上がった
- ◆新しい食育活動案では「地域の方との交流含め様々な食との触れ合い」が上がった

質問内容	回答
③復活させたい人気イベント内容を教えてください	<ul style="list-style-type: none">・子どもたちが栽培・収穫したものをみんなで食べる。（焼き芋パーティー、カレーパーティー、ケーキづくり、もちつき等）・地域の方や地域の小学校、中学校との交流・お話会、イベントの時、みんなでおやつを食べる
④新しい食育活動案があれば教えてください	<ul style="list-style-type: none">・地域の方が調理した食べ物を幼稚園朝市で販売・園内での学校給食体験。講師による食育講座。パパさんの調理。魚を食べる会・いろいろな保護者の方に作ってもらった食事をみんなで味わう体験・使う食材やメニューを子どもたちで相談して調理する体験・農家の方や酪農家の方などからの講話

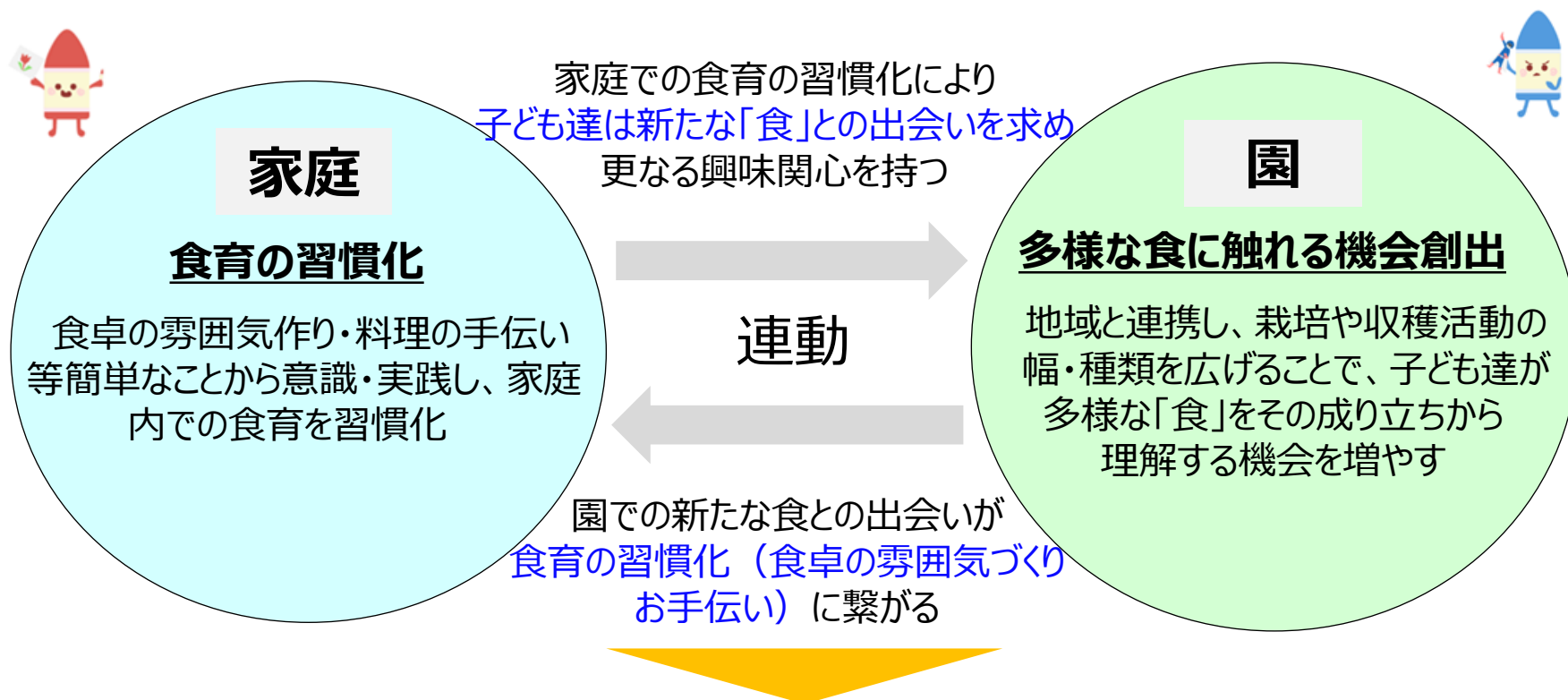
2-3. アンケート結果まとめ

- ◆ 日頃から食育を意識する保護者は約36%と低かったが、内容は、手軽に取り組める「食卓の雰囲気作り等」であった。また、新たにコロナ禍で始めた食育の多くは「料理のお手伝い」だった。
- ◆ 園が求める家庭での食育は「食卓の雰囲気作り・お手伝い」が多かった。

対象	質問内容	まとめ内容
保護者 向け	食育への関心・意識	<ul style="list-style-type: none"> ・認知、関心は高かったが、日頃からの食育意識は低い結果 ・意識している方の取り組みは「食卓の雰囲気作り」や「お手伝い」
	新たな取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、半数以上の方が「食育」の新たな取り組みを実施 ・内約80%のご家庭で、子どもと一緒に料理を作ることを実践
	園への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・大半は、子ども同士が会話しながら、楽しく食事をとることの復活だった
各園 向け	家庭での取り組み希望	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい食卓作りが、子ども達の偏食・マナー改善、食を知ることの基礎になるとの意見が多かった
	食への意識の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・黙食等で、子ども達の食への興味・関心の減退が懸念点に上がった
	復活させたいイベント	<ul style="list-style-type: none"> ・作物の栽培、収穫後みんなで調理し、食べるところまで実施したい
	新しい取り組み希望	<ul style="list-style-type: none"> ・各園の中だけでなく、保護者や地域の方々が参画した形で、さまざまな種類の食に触れ、学ぶ機会を提供したい

3. 今後の在り方

- ◆家庭：「食卓の雰囲気作りや、お手伝い」など手軽にできることから始め、習慣化させる。
- ◆園：地域と連携しながら多様な食（成り立ちから）と触れ合える機会を創出する。
- ◆結果、家庭と園双方での好循環が生まれ、子ども達の食への興味関心が高まり、質の高い適切な食育活動（食習慣）に繋がると考察



子ども達の食への興味関心が高まり、偏食改善・マナー習得等
知育・徳育・体育の基礎となる適切な食習慣へ

おわりに

ご清聴ありがとうございました

**アンケートにご協力いただいた保護者の皆様・園の先生方
誠にありがとうございました**

以上